

活動してきた2年間の思い出を語り合う4人。
青年海外協力隊に興味がある人は、徳島クレメントプラザ6階にある「徳島県国際交流協会」にGO！ JICA四国の野口さんからも具体的なアドバイスをもらおう。



青年海外協力隊って？
昭和40年にはじまった青年海外協力隊事業は、開発途上地域に協力隊員を派遣し、その国に住む人と共に生活し、働き、現地の言葉を話し、お互いの理解を深めながら、経済や社会の発展につながるよう活動するのが目的。任期は2年間。

海外でのボランティア

～人と人とのふれあい～

青年海外協力隊として、貧困や環境悪化など、さまざまな地域の問題に触れながら暮らす、密度の濃い2年間。文化や言葉が違う世界に飛び出して、何を感じ、どんな生活を送るのだろうか。協力隊として活動経験のある徳島県出身の4人に体験を語ってもらった。「海外で私も何かできないかな」「青年海外協力隊に参加したい」と考える人にとっては参考になるはず。



農業教師として活動
蔭山 奈歩さん (26歳)
貧困家庭の子ども、孤児の基礎教育を行う福祉学校に勤務。
動機／小6からの夢だったから。

タイ (2001.7-2003.7)



文化祭のひとコマ。タイでは農業の授業があり、小1からクワを使い、野菜を作る。

教えるつもりが、教わってばかり
子どもの頃から協力隊に憧れていた、ようやく夢が実現したというのに、最初の3カ月くらいは日本に帰りたいくらいだった。理由は、タイと日本の文化の違いにストレスを感じていたのと、自分が勝手に描いていた協力隊のイメージと現実があまりに違っていたこと。でも、本場の姉のような頼れる人が見つけられ、だんだん自分の居場所ができると、毎日が充実してきました。一度、何も言わずに友人の家に遊びに行き、泊めてもらったことがありました。翌日帰ると、近所の人たちが私を探していて、「あなたは外国人であることを自覚しなさい」とすごい剣幕で叱られました。自分の危機管理の甘さを知りました。



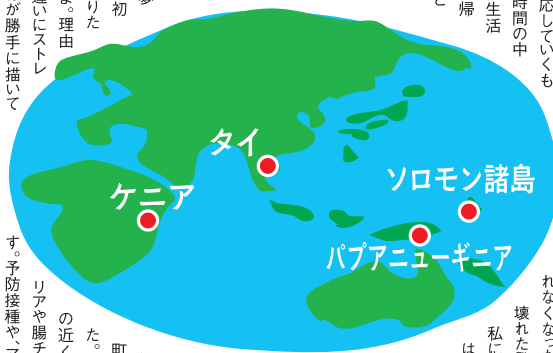
保健師として活動
有馬 麻紀さん (30歳)
予防接種や体重測定を行うほか、感染症予防などを指導。
動機／アフリカで働く看護師のドキュメント番組を見て。

ケニア (2001.4-2003.4)



学校での予防接種、妊娠健診や乳幼児健診など、母子保健の活動を行った。

人の生きる意味を考えた
ナイロビから9時間ほどの、オウギスという町の病院に配属されました。そこは、ウイクトリア湖の近くで蚊が多く、マラリアや腸チフスなどの汚染地域です。予防接種や、マラリアや破傷風予防の指導などを行っていました。ケニア人の平均寿命は50歳ほどで、生きることが必死です。貧しいため、物を分け合うことや弱い人を助けることが、幼い頃から自然と身についています。また、地域全体で子どもたちを守り、育てています。アフリカといえば、茶色い水を飲み、痩せた子どもにハエが集まっている様子を想像されやすいです。それも事実なのですが、私はそういった一面だけでなく、厳しい環境のなかで生きる、人の強さや優しさ、ユーモアなど、いろんな面を伝えたい。



モノがないことは不幸じゃない！
派遣先はソロモン諸島。赴任した学校では「理科」という教科がありませんでした。言葉の違う国でから教えるのが難しく、授業のための計画書作りに徹夜が続きました。授業は公用語の英語で行い、生活に慣れた1年後には、現地のソロモン語も使えるようになり、日本と比べたモノはないし、バスだて来るかどうかかわからない不便な生活です。その環境では、自分が日本人に生まれてきたことが奇跡だと思えました。でもモノがないかわりに人間は知恵を身に付けてその環境に適応していくものです。ゆつくりと流れる時間の中で、苦勞しつつも充実した生活を送ることができました。帰国後は、国際協力推進員としてJICA四国に勤めています。協力隊に興味がある人はいつでもご相談を！

ソロモン諸島 (1991.7-1993.7)



生徒とピクニック。胸元のアクセサリは、イルカの歯で作られたこの地域のもの。



理科教師として活動
野口 利浩さん (38歳)
実験器具など整わない中学校で、教育指導を行った。
動機／海外で住み、働くことが夢だったから。

パプアニューギニア (2000.7-2002.7)



最初の頃は、授業で話すことを英語でメモしておくために、眠れない日が続いたそう。



理科数科教師として活動
長野 仁志さん (28歳)
小学校教員志望の学生に、理科と数学の指導法を教えた。
動機／海外旅行に出かけるような感覚です。

青年海外協力隊 平成16年度春募集がはじまります！

■春募集期間／平成16年4月10日(土)～5月20日(木)
※募集は、春と秋の年2回です。

■応募資格／満20歳～満39歳(平成16年5月20日現在)の日本国籍を持つ方

■お問い合わせ／県文化国際課 TEL.088-621-2028

(財)徳島県国際交流協会 TEL.088-656-3303

JICA四国支部 TEL.087-833-0901

●協力隊について詳しく知りたい方は、JICAホームページ
<http://www.jica.go.jp> をご覧ください。

■県内募集説明会は3回！

説明会では、応募方法や派遣システムのほか、OB・OG隊員のアドバイスも得られます。入場料、予約等は不要です。日時と場所は次のとおりです。

第1回目 日時／4月18日(日)16時～18時 場所／(財)県国際交流協会(徳島市寺島本町西1-61 クレメントビル6F TEL.088-656-3303)

第2回目 日時／4月28日(水)18時30分～20時30分

場所／(財)県国際交流協会(同上)

第3回目 日時／5月7日(金)18時30分～20時30分

場所／池田公民館(三好郡池田町マチ2476 TEL.0883-72-3700)

Thinking about 青年海外協力隊



飯泉 嘉門 知事

青年海外協力隊の活動は、全世界の人々が生きる希望を持って生活していけるよう、現地の人々と共に知恵を絞り汗を流しながら、心の通った草の根の協力を行うものです。これは人と人との交流、ふれあいによる、本当の意味での外交ではないかと感じています。自然条件も社会条件も日本とは異なる開発途上国での活動です。現地では、精神面・体力面で想像を超える

困難があろうかと思えます。しかし、それを乗り越えた皆さんの目はキラキラと輝き、本当に魅力的な人となって帰国されます。海外でのボランティア活動は、世界を股にかけた人生道場とも言える、素晴らしい経験だと思えます。青年海外協力隊に興味のある皆さん、まず参加をしてみてください。そして、帰国後は、世界のことを大いに語り合おうではありませんか。